

【弓道マガジン7月号】

今月から弓道界のことや県内の動きなど、会員の皆さんに情報提供を主として弓道マガジンを再出発させることにしました。

県弓連2024年最大の目標は「第71回全日本勤労者弓道選手権大会」を来年の“2025滋賀国スポ”のリハーサル大会として成功させることでした。この大会、略して“全勤労”と言われており、国体開催の前年にリハーサル大会として開催されるものですが“昭和56のびわこ国体”の時は滋賀県では開催されませんでした。というわけで今年の全勤労は滋賀にとって初めての大会で、かつ、全国大会としては平成2年の全国健康福祉祭いわゆる「ねんりんピック」以来のものでした。

競技会場はプロシードアリーナ HIKONE。1階のサブアリーナを選手控えに、またメインアリーナは巻藁練習場と一般市民向けにモニターを配置して競技風景を見ていただきました。3階の近的場までは選手も階段を上ったり下ったりで、少々疲れる競技会場でもありました。

立体的な構造の射場で国体（国スポ）をするのは恐らく過去にはなかったと思うので、取り敢えず狭いギャラリー席ではあるもののなんとか二日間の大会を事故もなく終えられたことは滋賀県弓道連盟としては来年に向けての手応えを感じましたし、役員として頑張っていたいただいた会員の皆様に心からお礼申し上げます。さらに、成績でも「滋賀県教職員チーム」が見事5位入賞を果たしてくれ、役員も大いに沸きました。

大会終了後、忘れないうちに国スポ実行委員会を開催して課題や反省点などを出し合い来年の滋賀国スポに生かすことにしました。月刊「弓道」7月号には写真や成績など詳しく掲載されると思いますが、会員の皆様、来年の2025滋賀国スポに向けて一丸となって取り組んでいただきますよう一層のご協力をお願いします。

令和6年7月

会長 中村傳一郎